

八陣の図

杜

甫

功は蓋う三分の国

名は成る八陣の図

江流るるも石転ぜず

遺恨なり呉を吞むを失す

【作者】杜甫（七一二～七七〇年）・盛唐の詩人で李白と並び称せられ、中国詩史の上で偉大な詩人である。字は子美（しび）。少陵（しょうりよう）または

杜陵と号す。洛陽に近い鞏県（きょうけん）の生まれ、七歳より詩を作る。各地を放浪し生活は窮乏を極め、安祿山の乱に賊軍に捕らわれる。律詩に巧みで名作が多い。湖南省潭州（たんしゅう）から岳州に向かう船の中で没す。年五十九。李白の詩仙に対して、杜甫は詩聖と呼ばれる。

【語釈】*八陣図：諸葛亮（しょかつりよう）（一八一～二三四）、中国後漢末期から三国時代の蜀漢の政治家・軍師）が石を積んで作った陣形。

八陣とは、天・地・風・雲・飛竜・翔鳥・虎翼・蛇盤の八物にかたどったもの。

*蓋：圧倒する。 *三分国：魏・呉・蜀の三国。 *失呉吞：呉を滅ぼして併吞できなかった。

【備考】八陣図は三国志での三国による抗争も終盤に差しかかった頃、蜀が呉と争いになった際、呉の陸遜の追撃を孔明が自ら築いた八陣図という不思議な迷宮に誘いこみ打ち破るときに出てくる。休門、生門、傷門、杜門、景門、死門、驚門、開門という奇門遁甲の理論を応用して建造した一種の迷路のようなものらしい。いまでもこの八陣図が残っているという